

またしても重大事象発生！「運行優先」「営利優先」体質からの脱却と、安全文化の再確立、安心して働ける環境を職場からつくりだそう！

9月19日8時7分頃、古川～仙総所間走行中の3006B列車において、10号車と11号車の連結部分で列車が分離するという極めて重大な事象が発生しました。列車は緊急ブレーキ動作によって10号車と11号車の間が約300m分離した状態で停車しました。

幸いにもお客さまや乗務員にケガなどはありませんでしたが、1月23日の大宮～上一運間での架線垂下と復旧作業中の感電事故、3月6日の121Bが郡山駅で滑走による速度制御不能で制限速度を大幅に超過して分岐器を通過し、出発進路を大幅に冒進して停車した事象、4月2日には保守用車のオイル漏れが原因で長時間の運転見合わせなど新幹線、ひいては当社への信頼を大きく揺るがすような事象が連続して発生している中で、今回の事象が発生した点は重く受け止めなくてはなりません。

新幹線協議会は新幹線の安全・安心を再構築するため、そして失われた信頼を回復するために、今回の事象の徹底的な原因究明と対策実施を会社に求めると共に、お客さまの命をお預かりして仕事をしている者として、改めて「安全は全てに優先する」ということを強く訴えます。当社が最も期待されている社会的使命は「安全に」鉄道輸送を行うことです。お客さまへの最大のサービスは「安全」です。安定輸送、収益確保は安全があってこそ実現されるものです。社会からの期待に目を背ける組織に未来はありません。何を最優先とすべきか、決して間違えてはいけません。

今回の事象は営業運転中の新幹線が突然何の前触れもなく列車分離したという前代未聞の事象です。しかし、会社は原因が判明しない状態で併合列車の運転を継続していることから、疑問や不安の声が多く上げられています。ある経営幹部は、記者会見で併合運転に不安を訴える声があるという記者からの質問に「安全性への不安というのは話をごっちゃにしている。安全に停車したし、お客さまの生命に重大な支障が及ぶ事象もなかった」という驚くべき認識を示しました。もしこれが乗務員のミスで発生した事象だったら、この経営幹部は同じ返答をしていたでしょうか？日頃、乗務員が発生させた事象に対してどんなコメントが付けられ周知されていますか？ミスをした乗務員はどのような扱いを受けていますか？国府津運輸区、宇都宮運輸区でこの間何があったでしょうか？

今回の事象に限らず、業務や施策についてなど、気になることや疑問に思っていることがありましたら、JR東労組までお寄せください。新幹線協議会は今後も職場からの声を原点に運動を展開していきます。